

自遊塾倶楽部広報紙 井戸端通信

Vol.44

発行
平成27年3月1日

〒930-0096
富山県富山市舟橋北町7-1
富山県生涯学習力レッジ

自遊塾創立20周年式典挨拶

県民教授・塾長 水須 忠



九代目塾長の水須です。日頃より自遊塾の皆様に変にお世話になっております。

本日は自遊塾創立20周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶をさせて頂きます。先ずは週末で何かと多用のところまげてご臨席賜りました来賓の皆様、塾生の皆さんありがとうございます。今から20年前の平成7年に、先輩の県民教授の熱意と富山県教育委員会の支援で、この自遊塾が生まれたと聞いております。

ご存知の如く、富山県は教育に熱心で勤勉な県民性があると言われ、この県民性のもとで自遊塾が県民教授と塾生さんとの共同作業で発展したと思っております。先輩各位の熱意は大変であったと思います。

私は日頃「老いて学ばば若さを保つ」との思いで、学ば行為そのものを生涯通じて大切にしたいと考えております。

書物から、多くの先輩から、物事を教えて貰う。教えて頂く。自分の考え方を皆様に聞いて貰う。聞いて頂く。教授と塾生が共に学ぶ姿勢を大切にしたいと思っております。自遊塾創立20周年はまさに通過点で、これから10年、20年後に向かってこの自遊塾が更に発展することを願っています。

式典は限られた時間ですが、今までお世話頂いた先生方、先輩の県民教授・塾生さんから20年間の苦労話・思い出を聞かせて頂き、若い先生方・塾生さんには10年、20年後の自遊塾のあるべき姿・夢を語って頂きたく思います。

自遊塾の仲間同士として大いに語り合ひましょう。

結びに、式典の準備期間が大変短い中で、前県民力レッジ学長の加藤先生を中心に現力レッジの荒井学長、森学習専門員、関係各位の皆さんのご尽力を頂き、式典が行われたことに感謝申し上げます、私の挨拶といたします。

ありがとうございました。お互い楽しい一時を過ごしましょう。

20年の歩み振り返る

県民力レッジ自遊塾

県民力レッジ自遊塾の創立20周年記念式典が14日、富山市のボルファートとやまで開かれ、学びと交流の歩みを振り返った。

自遊塾は一般県民がボランティア講師の「県民教授」となって講座を企画し、塾生と一緒に自主的に運営している。現在72講座あり、延べ1,115人が学ぶ。

式典には塾生ら130人が出席。自遊塾県民教授会の水須忠塾長が「これから学び合いを続けていきたい」とあいさつ。

荒井克博県民生涯学習力レッジ学長らが祝辞を述べ、和やかに歓談した。

(北日本新聞2014年6月15日付)



特別企画「自遊塾創立20周年式典」

自遊塾創立20周年記念式典

県民教授 岩田 裕美子

平成26年6月14日(土) 14時より、ボルファートとやまにおいて、20周年記念式典がとり行われました。まず加藤前学長・水須塾長の挨拶に続き荒井学長・松原和仁氏・松平健二氏より祝辞を頂きました。地域や職業の違う異分野の教える人・学ぶ人の「魅力ある講座」に育てて、県民に広めたい。「富山の宝」を大きく育てたい。長寿社会を迎え、充実した余暇の実現」を目指したい。いろいろな苦労話やエピソードをお聞きし、関係者の代々受け継がれている自遊塾への思いを改めて感じる事が出来ました。130名の参加者と共に、以前の講師の先生・塾生が楽しく食事をしながら交流ができ、大変有意義な式典となりました。



会場受付の様子



式典の様子



県民カレッジ・荒井学長の祝辞

自遊塾20周年に寄せて

塾生 服部 京子

2年前に作られた新しい富山県の歌『ふるさとの空』を会場の皆さんと共に歌い、大いに盛り上がりました。私たちは呉羽山山頂や環水公園等、さわやかな空の下で仲間と一緒に歌っています。新鮮な空気を吸いながら歌うのはとても気持ちがいいものです。昨年から受講生は50余名となり、重松先生の指導の下、唱歌から新しい歌まで斉唱、二部合唱、時には三部合唱でハーモニーを楽しんでいます。

腹から声を出して歌うことは、私の心と体を活性化させてくれます。これからも仲間と共に歌うこと通して、自分を遊ばせながら、少しでも成長していきたいと思っています。今回は20周年の式典に発表の機会を与えていただき、ありがとうございました。

特別企画

「自遊塾創立20周年式典」

「ゆめ」

J A 9 C I A

塾生 寺西 夫美子

私に「ゆめ」なんてあったか？

ただ一度、宇宙飛行士になりたいと思った。友達に「アマチュア無線をやらなにか」と誘われた。通信教育を受けているうちに講習会制度が始まり電話級アマチュア無線技士の資格を取った。19歳の時である。3年後は二級、5年後は一級を、と燃えたのに仕事と育児に追われ忘れてしまった。

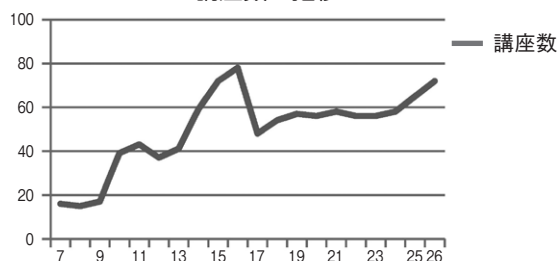
退職したら今一度「ゆめ」と、県民カレッジに通った。55歳の頃からである。会社からみどり野高校へ直行！ 残業で遅れたらその分走ってカバー！ カラカラになったのどに缶コーヒーがしみわたり、頭と心に先生の話がしみわたり、実に楽しい充実した一時だった。それでも「ゆめ」は見つからない。私は一体何をやりたいのだろうか？ でも講座はみな楽しいしやりがいもある。このまま30年間探し続けるのも、いいかも――

(※JA9CIAは無線のコールサイン)

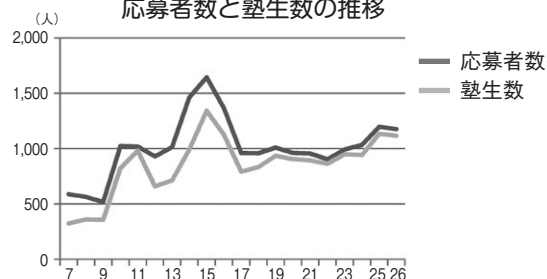


20年間での自遊塾講座数と塾生数の推移 (平成7年～26年)

講座数の推移



応募者数と塾生数の推移



第26回 県民カレッジ学遊祭特集

講演会(ホール)

演題 「私の人生観・囲碁観」 講師 武宮正樹氏

県民教授 平田 清志



武宮正樹氏は天才碁士である！ 獲得したタイトルは本因坊六期、名人一期、十段三期、その他の棋戦優勝はNHK杯、世界選手権、アジア選手権四連覇など多数あり、2006年に通算一〇〇〇勝(史上八人目)達成――。

彼の人気は、人柄はもちろん、棋風にある。それは碁盤の中央に独特の感覚から大模様を張る作戦で「宇宙流」と呼ばれ、多くのファンを持つ。

講演でその「宇宙流がなぜ生まれたのか」が詳細に語られた。最後に武宮氏のモットー「清く、美しく、楽しく」が語られ、このモットーで「世界を平和にして行こう」と結ばれた。私は特に感動したのは「美しく生きる」です！

「63歳の今も現役で活躍しているから、皆さん応援して下さい」とのこと。

「県民カレッジ叢書107『私の人生観、囲碁観』武宮正樹」が1月9日に発行されました。

ステージ発表

懐かしい曲を演奏したい

施設の方々と一緒に懐かしい曲を歌いハーモニカで演奏したい。と考えていたところ、偶然にも83歳の誕生日に初めてハーモニカを手にして水須先生と会うことができました。

その後、3年間ゆつくりですが他の塾生さんと一緒に学んでいます。初めハーモニカは場所を選ばないし、持ち運びが便利で簡単だと思いました。しかし今は奥が深くどんな楽器にも負けない魅力を感じています。

今年は7月に滑川市で、9月はサンシップで、10月は教育文化会館で演奏会に参加することが出来ました。

この小さな楽器は豊かな表現力となによりも音色が心を癒し、優しい快い気分にしてくれます。これからも練習に励み、自分の楽しい時間を作って、塾生の皆さんや施設の皆さんと一緒に至福の一時を味わいたいと思います。



塾生 遠藤 喜美

第26回 県民カレッジ学遊祭特集

展示発表

展示発表に参加して

県民教授 岡岸 喜義



第26回の学遊祭に展示のスペースを頂きお礼を申し上げます。「富山の名水探訪」は平成10年に始まり現在に至っています。今回の展示にはパネルで「活動内容」と「自分好みの水を求めて名水探訪」の写真を掲示し、手前の机には各年度毎の写真アルバムを配置しました。平成17年にはこの講座修了者で「NPO法人富山の名水を守る会」を立ち上げました。その機関紙の創刊号から17号まで、入会申込書も並べました。さらに机の前には富山の名水マップと各名水の硬度一覧表も掲示しました。富山の名水に興味のある方がじつと見入って下さる姿にも感謝です。この展示発表をご覧になって多くの方が郷土富山の水に興味をもっと頂けることを願っています。少し欲張って、来年の塾生の応募者数の増加と会員数の増加を願っています。

ロビーでの実演

腹話術って面白い

アシスタント 大久保 春子



平成22年に母が行っている『腹話術人形で笑いの出前』に参加し、その翌年から講座の手伝いをする事になりました。いくつかの間にかアシスタントに。気が付くと5年の月日が流れていました。初めは口の動きが気になる生徒さんでも、数回経つとビックリする位上手くなって……。私はアシスタントとして教えることで改めて発見することもあり、随分勉強になりました。

その間、いろんな生徒さんとの出会いはもちろん、学遊祭で知り合った他講座の県民教授の方々と交流を通し、よい刺激をいただいています。

『腹話術人形で笑いの出前』講座に、笑いに来てくださいませんか!?

「バルーンでイベントを盛り上げよう」

塾生 井澤 麗

学遊祭で、会場を訪れる方々にバルーンをプレゼントしました。講座名のとおり、受講生の目標はバルーン作品を作るようになる事ではなく、身に付けた技術を各種イベントで活かす事です。学遊祭への参加は一年間の講義の集大成となり、実際に人前で活動する経験となりました。リクエストを受けたり、視線を感じながらひねったりするのは緊張しますが、バルーンを受け取られた方が皆笑顔になるのがとても嬉しかったです。



バルーンは、その可愛くカラフルなフォルムで、大人も子供も明るく楽しい気持ちにさせてくれ、また空間を華やかに彩ってくれます。これからもその魅力を、多くの人達に体験していただく機会を増やしていきたいと思っています。

特集

ウォーキング冒険塾20周年

たかがウォーキング
されどウォーキング

県民教授 松原 和仁



20周年記念パーティー 松原冒険塾代表の挨拶

20年前の1995年、自遊塾の講座が創設された1回目から「ウォーキング冒険塾」が始まりました。「海拔0mから3003mへ」というキャッチフレーズで、

もう20回も立山に登りました。冒険塾生が今まで累計約1000名が卒業し、現在OB会である「ウォーキング冒険塾」は会員210名です。毎週土曜日を中心に年間70日程コースを組んで歩いています。足腰の筋力が維持され、病気の抵抗力ができました。また多くの友達ができ、自然の中で身体の不調が癒され、有酸素運動で脳が活性化されます。ウォーキングの効能を挙げればキリがありません。

また社会貢献活動として1キロ歩いたら10円の寄付をする運動をしています。毎月ワールドヴィジョンを通じて世界の貧困地域へ送金しています。当初の「たかがウォーキング」が大きく広がり、冒険心をかりたててくれました。今後一人一人がより健康で長寿に向かうことを願って継続していきたいと思っています。

ウォーキング冒険塾に
かかわって

県民教授 飯野 勝



インドネシアのロンボク島

自遊塾が声を上げ、富山県の生涯学習の先陣を切って活動し始めた時から講座の一つが「ウォーキング冒険塾」です。「継続は力」となって20年も続いた理由は、3つの楽しいことが土台にあったからです。

一つは、参加する楽しみです。これほどの範囲と距離を富山県の自然に腰を下ろし、県外や海外にまで足を伸ばしてのフィールドワークは、圧巻と言って自慢してもいいと思う。

もう一つは、コース作りです。昨年のコースを元に変化をもたせ、よりよいものを作り出すことです。

最後の一つは、毎月の発送作業です。200人近い塾生に、年間スケジュールに沿って、立山編、富山湾編、私鉄

廃線沿い編、富山編、富山200km編、特別編などを郵送する作業です。この3つの土台を堅持し「ウォーキング冒険塾」を発展させていきたいものです。

ナマクラ塾生のつづやき

塾生 大住 剛



立山ウォーキング常願寺川転石

私が冒険塾に入会して8年になる。浜黒崎の海岸（海拔0m）から立山山頂（約3000m）のウォーキングのノルマを果たして久しい。その頃は10km歩行も苦しかったが、今では15kmも容易に歩けるようになった。冒険塾に参加し、知らないうちに体力がついたお蔭だと思って感謝している。

その後、新しいルート（〇〇編等）が計画され、林道や、廃線等のウォークに参加した。それによって、自然に接する趣味が加速していった。その2、3を述べる。

・ハイキング…「富山県の山（山と溪谷社）」に出てくる3〜4時間程度の山を楽しむのはウォーキング力が付いたお蔭だと思っている。

・植物、昆虫観察…例えば、富山市立科学博物館主催の猿倉山方面の観察会等に体力的余裕を持って参加したり、富山県や市に広がる外来種ヒメオドリコソウやヒガンバナや或いは昆虫等の少ない山手のデータは林道や廃線コースなどの歩行で収集したりできた。

・野鳥観察…歩行スピードから鳥の特定はできないが、改めて詳細に観察できる機会を与えてくれている。例えば、井田川沿いでのササギイカカッコー、アマツバメ等が挙げられる。

踏む大地からの感動

塾生 平木 陽子



熊野古道ウォーキング

創設20周年、なんと長い歴史。自分は塾生になって未だ2年目ですが、この時に居合わせて幸せに思います。冒険塾は、先生方が趣向や工夫を凝らしてくださって、県内のあちこち、自分では絶対に行かないようなコースと、内容も充実しています。また、県外コースや宿泊コースもあり、それも楽しみ。初めて姫川源流を見た時の感動は、今も鮮やかです。白神山地や熊野古道の、世界遺産を歩くこともできて、ちょっと誇らしい。志を同じくする仲間と一緒に語らいながら歩くものうれしい。

周りの景色を見ずにひたすら他の人のスピードを追いかけてばかりかと思いきや、改めて、そのときにも、自分の足で歩く。ことでしか味わえない、多くの感動や驚きがあったと気づきます。また、踏む大地からは、生きていくためのエネルギーを返してもらっていたように思います。だから、冒険塾生として歩けることに感謝。

講座紹介

「活けて癒されよう——
庭先や道端の花、草、
木々で」を受講して

塾生 土肥 慶子

庭先に咲いている花、散歩して目に入ってくる野の花……。いつも身近にあふれている草花の美しさや可愛らしさ、それを花器を使ってひとつの世界に表現する楽しさを、メンバーで味わう講座です。

花の表情はもちろん、葉や枝の生かし方を先生から教わり「なるほど!」と目からウロコを何枚か落とし、その度に心が和み、皆の笑顔が広がります。先生の用意された花に加えメンバーが持ち寄る草花が、ホッとできる心のオアシスのような「宝物」に変わる一時です。先生の花に対する熱い思いや感性が伝わり、同時にお人柄に癒されます。

夏は涼しく青竹に活け、クリスマスやお正月は生花に活け、季節や年中行事も取り入れて、毎回充実した時間を過ごしています。近くの川原や野山に足を伸ばし大自然の中でダイナミックに生花を堪能する機会も新鮮な経験となります。

日頃、家でちよつとした空間を利用して自由な発想で活けては眺め潤いのある毎日を送っています。

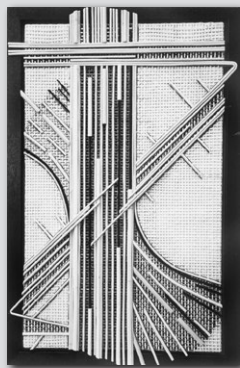


News



「競い咲きの終焉」
県民教授 松本慎一さん

全国公募第18回総合写真展にて
優秀賞(北日本新聞社賞)を受賞



「称 名」
県民教授 熊木保子さん

日展に入選した籐平面造形作品「称名」が
イタリア・ローマ大学に永久展示



「夜 桜」
県民教授 中川佳子さん
第13回大韓民国押花大展で特選受賞

富山の魅力や価値観を
伝えられるように

県民教授 加賀谷 辰夫

「富山の魅力」と題して、くすり、遺跡、ご朱印を例に地域の魅力や価値観に気づき、再認識し、意識を高める講座を6回開催しました。第3回はジェネリック医薬品メーカーの役員を招へいし、普段なかなか知る機会の少ない品質管理と安定供給の講座を行った。第5回はご朱印ガールなど最近関心が高まる「ご朱印」の鑑賞です。最終回は、塾生1人ひとりが自分の言葉でふるさと富山の魅力を伝え、多くの知の収穫を得られました。27、28年度も砺波地区センターで開講しますので、興味のある方は一緒に頑張りましょう。

新任県民教授

読み聞かせ・朗読…音訳!!
「好きを生きがいに」

県民教授 立田 ひろみ

昨年、県民カレッジの「高志の国文学講座」を受講しました。富山の文学に関わりのある地域を、講師の解説を聞きながら実際に歩いて回るものでした。これは素敵な地元文学の発見となりました。もともと富山大好き人間である私は、この素晴らしい宝を広めるために、何か役立つことはできないかと思いついたのです。私自身は、小さい頃より物語や声に出して読むことが好きだけで、何の取り柄もありませんが、同好の仲間と共に少しでも社会に役立ち、生きがいにすることができればと願っています。

能 狂言みちしるべ
「見て、触れて、能に親しむ」

県民教授 川田 有紀子

能と狂言は六百年続く芸能です。日本の伝統文化の継承に大きな影響を与えているのではないかと考えます。「わつ、むすかしい。」という前に、ちよつと触れてみませんか。富山能楽堂に行ったり、謡や楽器を体験したりすることで、より身近に能や狂言に親しむことができると思っています。

平成26年度自遊塾交流会報告

- 1 日時 7月26日(土) 13時30分～16時
- 2 場所 となみ散居村ミュージアム・交流館
- 3 人数 11名
- 4 内容
 - (1) ミニ講座
 - ① ほめて認めてハッピーライフ (経田 博子)
 - ミニワークとほめ達検定などについてやさしく解説。
 - ② 指笛を使って演奏し、鳥の鳴き声にも挑戦しよう (野中 健二)
 - 指笛での演奏があり、やさしい音色にうっとりした。
 - ③ ラジコン飛行機製作教室 (澤田 章治)
 - ラジコンの種類や今後の講座の運営などについての話。
 - (2) 自己紹介及び意見交換
 - ① 各自の講座紹介があり、今後の講座運営などで参考になることが数多くある。
 - ② 新規県民教授への助言や支援が、今後とも必要と感じる。



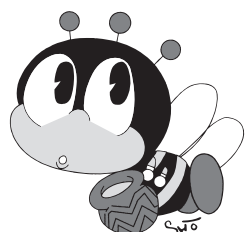
務局からのお知らせ

27年度の自遊塾は、85講座の実施予定です。

生涯学習の一環として実施している自遊塾、その主役は、県民教授と塾生の皆さんです。お互いの学びと交流の場として、特色ある講座をつくりあげてください。

自遊塾の申込手順

- ① 受講講座を決める(2講座まで)
- ② 申込書の提出(結果通知用の82円切手が必要です)
※提出は県民カレッジ本部、地区センター窓口まで(締切4/17)
- ③ 結果通知発送(4月下旬)
- ④ 結果通知を持参して自遊塾負担金を県民カレッジに支払う(1講座につき500円)
※支払いは県民カレッジ本部、地区センターの窓口まで。郵送の場合は、定額小為替を同封して本部まで。
- ⑤ 講座毎に開始日が異なります。申込み要項の日程に従い、ご参加ください。



生涯学習のマスコット「マナビイ」
デザイン/石ノ森章太郎

県民教授リレーコメント

「いきいき富山の健康づくり」

檜谷 靖城

健康不安、体力、筋力の低下を案じている方が対象の講座です。生涯現役で活躍されている日野原重明先生(101歳)等の元気パワーの秘訣を座学、野外学習を楽しみながら身体づくりに挑戦しています。



立山町の「グリーンパーク吉峰」 9月

平成26年度自遊塾
県民教授会役員

塾長	水須 忠
副塾長	岡岸 喜義
副塾長	檜谷 靖城
広報	
部長	平田 清志
副部長	古川 圭子
交流・研修	
部長	大塚 裕一
副部長	坂田 陽子
出前・庶務	
部長	檜谷 靖城
副部長	重松 秀子
20周年実行委員会	
委員長	加藤 敏久

編集後記

平田 清志

昨年、自遊塾は20周年を迎え、記念式典を行った。同時開講のウォーキング冒険塾も20周年を迎え、記念講演など多彩なイベントを開いた。講演後のパーティで、『井戸端通信』創刊に関わった塾生と出会った(彼は現在、自遊塾と関わりはないが、ウォーキング冒険塾のOB会員)。「井戸端通信」の創刊は3年後で、発行にかかわったのは教授会でなく、数人の塾生だ。パーティ終了間際の出会ひであつたので、語り合う時間は少なかったが、当時の思い出をお聞きた。「隣の講座は何をしているのだろうか?」との好奇心から、他講座塾生との交流紙として発行したそうだ。「懐かしいなあ」彼は、私が持っていた『井戸端通信』最新号を眺めてつぶやいた。改めて20年の流れを感じた。